



研修講座 B-2 「特別支援教育」を実施しました！
 「多様なニーズのある子どもの理解と支援
 —ナチュラルサポートをめざして—」
 【講師】 大阪大谷大学 教育学部教授 小田 浩伸さん

8月6日(木)に「特別支援教育」の研修講座を実施しました。

演題に沿って、具体的な実践例と体験学習を組み合わせながらご講演いただきました。小田先生は「授業改善が教育の今日的課題解決に向けての根幹となっている」と話されました。その視点からここでは「安心して学べる集団づくり」と「わかる授業づくり」について、全ての学級で実践できる取組を掲載します。まず前者について「①肯定的な指示や指摘のバリエーションの多用 ②ワンアップ・ワンダウンの対応 ③基本的な SST を日常の中で習慣化する」三点を挙げられました。①は、簡潔に明瞭に言葉を選択しての指導です。例えば「ちゃんとして」という抽象的な指示ではなく「両足を床につけましょう」と具体的に指示を出します。他にも「集中して」ではなく「今は絵を塗りましょう」というように子どもがやるべきことを焦点化します。②は感情のコントロールを表しています。子どもの感情が上がっている時(ワンアップ)は、教師はより冷静な対応(ワンダウン)を心がけ指導するということです。これは「人間関係の基本」とも話されました。また③では日常の中で教師がモデルとなり範を示すということです。互いの違いを認め合える集団づくりは、私たち教師の言動によることを改めて感じました。また後者では UD の視点を活かした授業づくりでの全体的な支援として、①教室環境確認(落とし物・収納状況等) ②授業に必要な物のみを机の上に置く ③めあてを書き、本時のポイントを明確にする ④板書の量、書く位置などの工夫 ⑤「聞くとき」「話すとき」「書くとき」を区別し、同時に提示しない ⑥ペアやグループでの対話的な場面を設定する ⑦何度かリスタートの場面をつくる ⑧本時のポイントを復唱し「授業のふり返しを行う」等です。「特別な支援を必要とする子どもにとっての支援は、多様なニーズのある子どもにとっても有用である」ことをご教示いただきました。



研修に参加された先生方には、今後の実践に活かしていただくとともに、各校で還流していただきますようお願いします。

アンケートより【一部抜粋】

・支援が必要と思われる子を取りまく状況も実に多様で、特別支援の視点をもった学校づくり学級づくりがますます必要だと感じました。愛着形成に課題のある子をめぐる状況や支援の話を折りまぜて聞かせていただいたことも良かったです。また職場の多くの先生方と話を聞けたので、共有材料にして、学校の UD 化に取り組みます。【小】

・普段生徒と関わっている時「何でわからへんの?」と思ってしまうことがありました、勉強に達成感が感じられず、わからないまま苦しんでいたのかもとふり返り感じました。自分の心に余裕がない時は、つい子どものせいにしてしまっていました。一人一人の生徒がみんな「わかった」となる工夫を、生徒が何に困るかを事前に考えて、授業をつくっていかうと思いました。【中】

・多様なニーズのある生徒の感じ方。見方について少しわかるようになりました。1回目・2回目の指示や課題をわかりやすいものにすることで、生徒が継続して課題に取り組むことができるようになりました。教室環境は生徒の集中力に直結するということなので、意識して整備するようになりたいと思いました。【県立学校】